

令和 5 年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：学校法人濱名山手学院関西国際大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

・幼稚園に求められる役割の多様化・複雑化

令和元年 10 月からの幼児教育・保育無償化に伴い、子どもや子育てを取り巻く環境が急速に変化した。まず、第一に受け入れ人数の増加である。就学前教育のみではなく、保育へのニーズが高まるため、幼稚園から認定こども園へ移行が行われ、それに伴う乳児の受け入れ、長時間保育など、幼稚園に求められる役割も多様化・複雑化している。

・生活体験不足を補う幼児教育の必要性

さらに、令和 3 年 1 月に中央教育審議会より出された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～』答申には、第Ⅱ部 各論「1. 幼児教育の質の向上について」の中に、「…急速な少子化の進行、家庭及び地域を取り巻く状況の変化等が複合的に絡み合い、幼児の生活体験が不足しているといった課題も見られる。幼稚園、保育所、認定こども園といった各幼児教育施設においては、集団活動を通して、家庭や地域では体験し難い、社会・文化自然等に触れる中で、幼児期に育みたい資質・能力を育成する幼児教育の実践の質の向上に一層取り組んでいく必要がある。」とあり、幼児期に育みたい資質・能力を育成するための体験や実践を重視した幼児教育の質の向上が求められている。

・幼児教育を担う人材の資質及び専門性向上の必要性

また、「とりわけ、新型コロナウイルス感染症への対応をとりつつ、子供の健やかな育ちをいかに守り支えていくかが今日の課題となっており、こうした課題にも的確に対応するため、教育環境の整備も含めた幼児教育の内容・方法の改善・充実や、幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上、幼児教育を推進するための体制の構築等の取組を進めることが必要である。」と明記されており、幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上が喫緊の課題となっている。

さらに、幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上については、「①処遇改善をはじめとした人材の確保、②研修の充実等による資質の向上、③教職員の専門性の向上が挙げられており、都道府県において、各地域における養成校等と連携し、より上位の免許状の取得に係る単位修得に資する認定講習等を開設し、幼稚園教諭の専門性の向上に向けた環境整備を図る必要がある」と明記されている。養成校である本学は、幼稚園・認定こども園と地域行政（教育委員会）と連携し、受講者が勤務する地域の持続可能な在り方を想定しながら、幼児教育を担う人材の資質及び専門性の向上を図る。

(2) 事業概要

実施時期	活動の内容		
	実施内容	評価	検討委員会
4月～9月	講義内容の検討・認定	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のアンケート結果を基に実施についての検討 ・コロナ禍の影響を受けオンデマンド+スクーリングの調整 ・オンデマンドにて申請・認定 	事業推進検討部会 教務委員会
7月～9月	兵庫県内および阪神間の幼稚園への広報・募集		社会連携課
R5.8/28～ R6.1/10	受講申込受付		社会連携課
R5.9/27～ R6.2/28	対象講義の開講 アンケートの回収・集計	オンデマンド（一部スクーリング実施）にて開講	研修講師
12月末～ 2月	過去受講者へのアンケート調査の実施		社会連携課
3月	評価・単位認定		研修講師 教務委員会

(3) 成果（事業の実績の説明）

① 本事業を活用して開設した講習

当初の予定通り、通信教育（オンデマンド）にて以下の講習を開講した。

内 容：幼稚園教諭免許法認定講習（幼稚園教諭免許法認定通信教育）

開設数：10 講習

受講者の上限：各科目 40 名

受講料：6000 円

② 上記講座のそれぞれの受講者数

講習別受講者数

■講習別受講者数(オンデマンドにて実施。一部スクーリングあり)					
	科目名	定員	申込者数	受講許可数	単位取得者数
1	教育心理学持論	40	18	17	15
2	幼児教育持論	40	15	13	10
3	保育内容(環境)	40	17	15	13
4	保育内容(言葉)	40	18	17	13
5	保育内容(総論)	40	15	14	13
6	障害児保育持論	40	16	14	10
7	保育相談支援持論	40	15	13	9
8	保育内容(人間関係)	40	18	16	11
9	音楽(伴奏法)	40	15	13	13
10	保育内容(表現・造形)	40	16	14	13
	合計	400	163	146	120

③単位取得者数

上記、表のとおり 合計 120名 (合格率 82.2%)

④本事業を活用して幼稚園教諭等一種免許状に上進した教員数

8名 (2023年度 10単位取得 6名)

⑤経年比較

年度	講習数	募集定員	受講者数	前年比較
令和元年度	13	800	628	-
令和2年度	10	610	423	-32.6%
令和3年度	10	610	137	-67.6%
令和4年度	10	600	118	-13.4%
令和5年度	10	400	146	23.7%増

⑥事業計画に基づく実績

(1) 一種免許状の取得機会の拡大

オンデマンド講習並びにオンラインを活用したスクーリングの活用により、通学圏内以外の地域からも受講を可能とし、遠隔地における受講機会の拡大を図るべく、開講と同時に全国の教育委員会や幼稚園協会へ受講案内を送付した。

県外からの受講者は以下のとおりである。

都道府県	北海道	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	兵庫県	香川県	福岡県	佐賀県	長崎県	合計
人数	1	1	2	1	7	16	1	3	1	1	34

(2) 「現場の経験」を重視した効果的な講習の開発・実施。

・現場で活用できる実践的な内容の強化

一昨年度、講義内で行われるグループワークが役に立ったとの意見があったので、すべての講義でスクーリングを追加した。しかし、地域に関係なく受講できるオンデマンドのメリットを妨げないよう遠方の方やコロナ対応として、ハイフレックスでも受講できるよう工夫した。

スクーリングの時期についても、昨年度、スクーリング参加者の交流により、情報交換なども盛んに行われていた様子から、早い時期にスクーリングを行う科目も用意し、継続的に交流が持てるように配慮した。

また、オンライン参加の方がスクーリングの様子がよくわかるように、360度カメラを利用する、オンライン参加の方も交えたグループワークができるよう工夫した。

また、体調不良等で参加できなかった方のために録画データをオンデマンドでも視聴できるよう配慮した。

講義の内容については、現場で求められる実践的なテーマを中心に扱った。受講者がミドルリーダーやリーダーとして、園における幼児教育の質の向上、職員の資質向上のキーパーソンとなれるよう園内研修でもしうのできるようなグループワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れた内容とした。演習やグループワークでは、他園との意見交換ができるようにし、コミュニケーション力、情報収集力の向上に努めた。

・必要とされる力の補強

特別な支援を必要とする子どもへの配慮や保護者支援は、幼稚園教諭にとって、一番身近な課題となっているため対象講義以外に本学で開講している公開講座「就学前の特別支援教育」の受講について、減免し受講できるようにした。

・ICTスキルの強化

令和3年1月に中央教育審議会より出された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して〜』答申には、第Ⅱ部 各論「1. 幼児教育の質の向上について」の中に、「とりわけ、新型コロナウイルス感染症への対応をとりつつ、子供の健やかな育ちをいかに守り支えていくかが今日の課題となっており、こうした課題にも的確に対応するため、教育環境の整備も含めた幼児教育の内容・方法の改善・充実や、幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上、幼児教育を推進するための体制の構築等の取組を進めることが必要である。」と明記されており、コロナ禍によって現場に求められている資質や専門性についても変化してきている。

特にコロナ禍によって、ICTの普及・活用が加速したため、ICTに精通した教員の育成は喫緊の課題となっている。現場でも求められるようになったICTについて、オンデマンド講習を通じて、サポートし、強化するとともに、教育現場におけるICT活用やICTスキルについて最新情報を取り入れた研修を行った。

・双方向性の確保

受講者間の交流促進を図り、すべての科目で1〜2コマ程度のスクーリングを取り入れている。昨年度も問題なくグループワークが行えたことから、積極的にハイフレックスでもグループワークを取り入れた。

また、オンデマンド講習の中で反転学習や実践に即した講習を行うよう進めている。例えば、次回への課題として、テーマに即した保育現場での課題等のレポートを求め、講義終了後に改善案をレポートしたり、実際の園風景の写真等を活用したりするなど、学びと実践を往還させる仕組みを取り入れている。

受講生の課題を共有できるものについては、名前を伏せ、共有することによって、他園の取り組みなどを知る機会とした。

・「新たな教師の学びの姿」を実現するための取り組み

今後も継続して学びを続けられるよう本学にて実施の夜間講座の紹介を随時行った。また、本学大学院の臨床教育学専攻に「幼児教育マネジメントコース」新設されたため、幼稚園教諭一種を取得した後、専修免許状へのステップアップの道筋の紹介として、大学院授業の一部公開などを行った。

・地域における上進ニーズに関する調査の実施

過去4年間の修了者に対して、受講後の意識や処遇の変化について、アンケート調査を行った。

幼稚園・認定こども園・保育園における免許種・研修に関する実態調査

調査名：令和5年度関西国際大学 幼稚園教諭免許法認定講習 受講者アンケート

調査方法：アンケートを郵送し、郵送・FAXまたはインターネットによる回答

調査期間：2023年12月中旬～2024年2月中旬

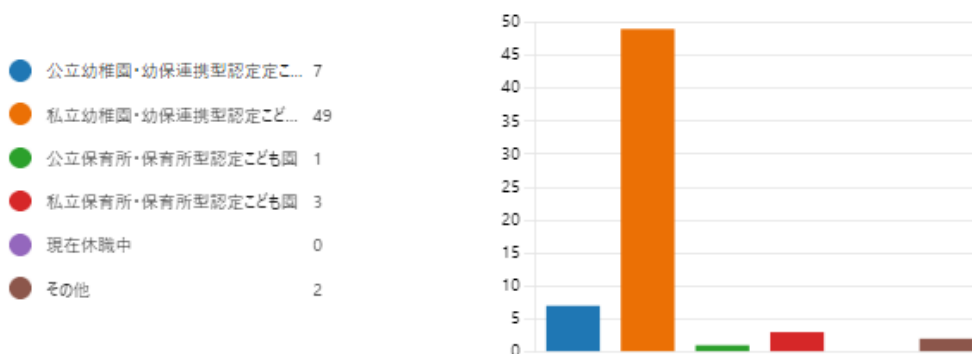
調査対象：過去4年間の受講生 265名

回答数：62件

<アンケート結果>

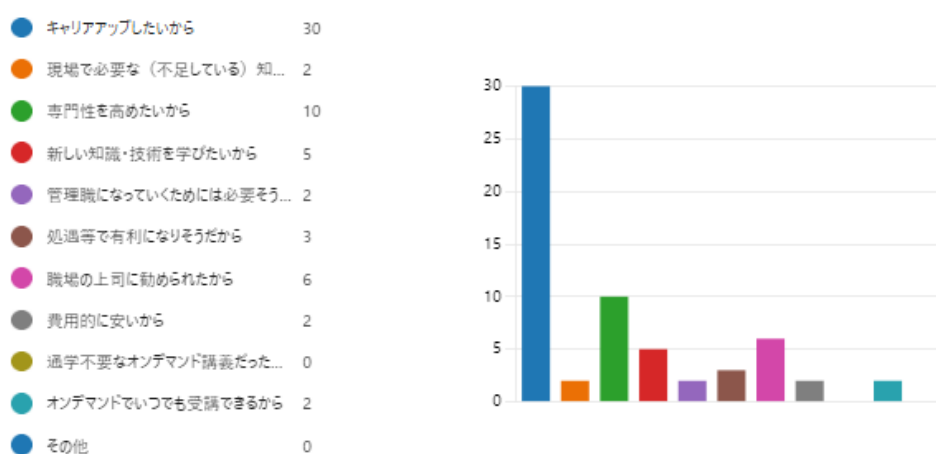
1. 勤務先について教えてください。

詳細



2. 幼稚園教諭免許法認定講習を受講された動機をお教えてください。

詳細

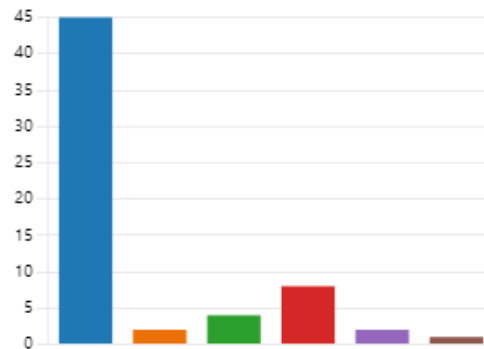


3. 幼稚園教諭の免許を1種に上進はお済みでしょうか

詳細

インサイト

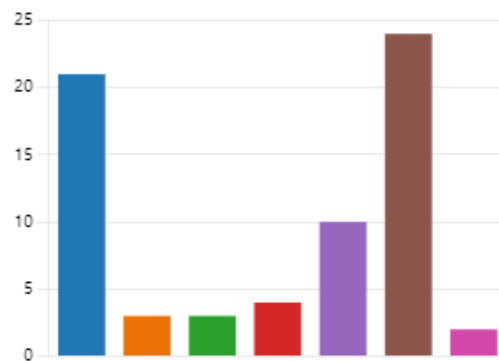
● 上進済み	45
● 単位は取得したがまだ申請していない	2
● 単位は取得したが経験年数が未達	4
● 単位不足のため現在受講中	8
● 単位不足だが今は受講していない	2
● その他	1



4. 免許種が一種になることで、お仕事の面で変わることはありますか。

詳細

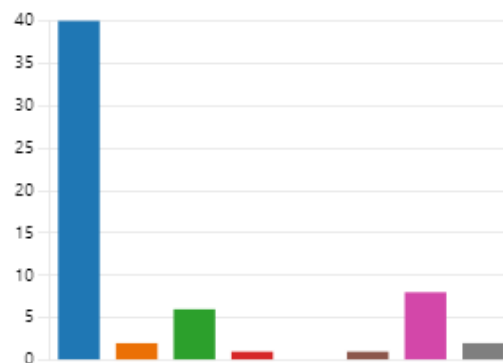
● 給料（基本給）が上がる	21
● 資格手当がつく	3
● 役職（管理職・リーダー）がつく	3
● 昇進できる範囲が変わる	4
● わからない	10
● 特になし	24
● その他	2



5. 幼稚園教諭免許法認定講習を受けて役に立ったことをお教えてください。（複数回答可）

詳細

● 幼児教育の最新知識	40
● 保育内容の指導法	2
● 特別支援教育	6
● グループワークの手法	1
● パソコンスキル	0
● 文章力の向上	1
● 他園の先生方との交流	8
● その他	2



6. 幼稚園教諭免許法認定講習を受けて役に立ったことを具体的にご記入ください。

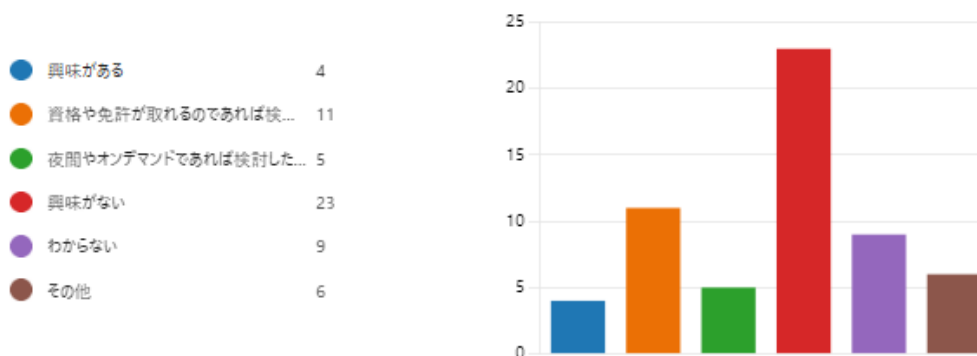
- グループワークでいろいろな園の情報を知ることができたこと
- こどもを見る視点、環境構成の大切さ
- こども主体の保育への取り組み方
- ピアノ実習は好きな科目であったこともあり、とても勉強になったし、何より楽しかった。リトミックもピアノの技術により子どもを音楽の世界に引き込める魅力を学んだ。自身が現場にいるからこそ、講習を受ける上で自分の課題が見えてきたり、これはしっかり知ったおかないといけないことだと思いながら講習を受けた経験が自分のスキルとして残っている。
- レポート提出の際、文章の書き方の未熟さを実感できた。
- 以前よりも専門的な知識とスキルで若い先生、保護者からの相談を受けた時に様々な角度から助言できるようになりました。
- 改めて学ぶことで、日々の保育の振り返りに繋がった。特別支援の講習は、職場では専門の職員を中心としているが、改めて自分自身の中で学び直して理解が深まり役に立ちました。
- 改めて保育の学びが出来たことと、基本給が上がったこと
- 学び直しができる、新たな気持ちで保育に向き合えた
- 久しぶりに一生懸命勉強して、学生の時よりも学びが大きく一層向上心が湧いた。
- 現場での子どもたちの環境に関する視点が変わった
- 現場での子どもとの関わりが変わった。
- 今何が求められているかや、支援が必要な子どもたちへどのように対応してあげばいいのか、現場と照らし合わせながら勉強することができた。
- 子どもへの関わり方の見直し
- 私が学校で学んだ知識をバージョンアップすることができました。
- 私が勉強していた時とは、違うことなどもありましたし、あーこんなこと勉強したよね。と思うこともあったので良かったです。
- 自分の中にはなかった知識を得られたり新たな気づきがありました。また、学ぶ楽しさも感じられまた何か学んでみたいなどもおもっています。
- 授業で学んだことと、他園の先生との交流を通して自園で取り入れたいことや自園の良さを知れたことです！
- 障がい児への関わり方等、改めて考えるきっかけになった。
- 色々な分野において知識が増えた。
- 新しい教育理論や指導方法等を具体的に学ぶことができた
- 新しい幼児教育について学べて、自分自身のスキルアップに繋がる機会となったから
- 専門知識が増えた。
- 造形活動は、新しい手法や遊び方を学べ、直ぐに実践に活かせたのでよかった。また、

ドキュメンテーションなど保育の発信の仕方は、園でも取り組み初めたばかりだったので、参考になってよかった。

- 他の園の先生方とお話する機会がたくさんあり、色々な考え方ややり方、保育について更に考えることが出来良い学びの場になりました。
- 他園の先生と交流し、刺激を受け、そのまま自信をもって保育できること、改善すべきことが明確になったこと。
- 短大を卒業してから時間が経っていた為、もう一度過去に学んだことを思い出すことが出来た。今現在の子どもを取り巻く環境を知ることができ、他園の先生たちと情報交換出来たことが良かった。
- 知識が大学卒業のところで止まっていた事もあり、法律等も含め、現在の在り方を知る機会となった。
- 普段の仕事の上では、あまり変わりませんが、自分の自信につながったと思います。
- 保育における専門性を高めることができた。また他の幼稚園の先生がと交流するなかで様々な話をきくことができた。
- 保育の最新の知識を学ぶことが出来た。また、ほかの園の先生と情報交換できたことや、パソコンを使う機会になった。
- 領域人間関係において マイナスな面もプラスに置き換えて考えると楽にもなるし子どもたちへも禁止ではなく肯定的な言葉がけができるようになった

7. 大学への編入学（3年次）について興味はありますか。（複数回答）

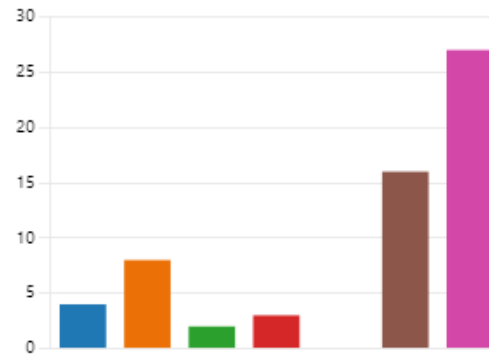
詳細



8. 社会人の学びなおしについてお伺いします。
 大学院進学（専修免許取得）についてご興味はありますか。

詳細 [インサイト](#)

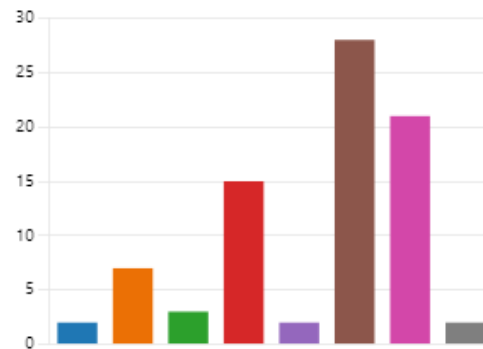
● 進学を検討している	4
● 将来的には進学したいと思っている	8
● 現在、研究科在学中である	2
● 既に大学院（修士課程）を修了し...	3
● 既に大学院（博士課程）を修了し...	0
● 興味がない	16
● わからない	27



9. 今後取得したい資格や興味関心のある資格はありますか？

詳細

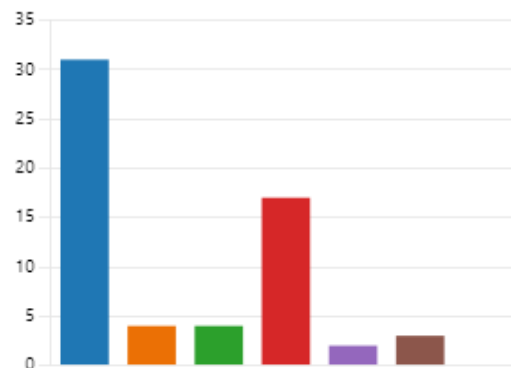
● 保育士資格	2
● 幼稚園教諭専修免許状	7
● 小学校教諭免許状	3
● 特別支援学校教諭免許状	15
● 防災士	2
● 特別支援教育コーディネーター（履...	28
● 臨床発達心理士	21
● その他	2



10. 同期遠隔（オンライン）、非同期遠隔（オンデマンド）についてお答えください（複数回答）

詳細

● オンラインやオンデマンドでの受講の...	31
● オンラインやオンデマンドのみの講義...	4
● オンラインやオンデマンドは操作が不安	4
● スクーリングもあるとよい	17
● どちらともいえない	2
● オンラインやオンデマンドはできれば避...	3
● その他	0



(4) 今後の課題・展望

本事業を 5 年間実施させていただいたことにより、近隣地域での幼稚園教諭免許法認定講習の受講者は、今後大きく増加することはないと思われる。

しかしながら、免許の上進の必要がなくなっても、幼稚園や幼稚園教諭には求められる役割は多様化・複雑化し、日々の業務に加え、専門性の向上が求められている。

そこで、上進講習の対象者だけでなく、キャリアアップ研修、園内研修の補助としての活用を推進し、広く幼児教育の質の向上を図れるように進めていきたいと考えている。特に現代的な課題に関する講義の提供として、幼児教育の中で喫緊の課題となっているテーマを取り上げた講演会を行う。具体的には、ICT 教育、著作権や個人情報保護、特別支援・インクルーシブ保育・多様性保育など、現在現場で課題となっているテーマについて開講する。本講演会は、本事業の履修に関わらず広く一般にも公開し、地域の幼児教育に関わる教職員の学びの機会の提供を行う。

また、学び続ける教師を支援する仕組みとして、本学大学院人間行動学研究科臨床教育学専攻では、夜間に講義を実施し、「修士論文指導」を除き、オンラインでの受講が可能となっている。働きながらも履修が可能となり、専修免許が取得できる。また、臨床教育学専攻は「文部科学省職業実践力育成プログラム認定 (BP : Brush up Program for professional)」に認定されており、教育訓練給付金制度を受給することができる。

さらに、令和 5 年度より臨床教育学専攻に「幼児教育マネジメントコース」を新設しており、幼稚園教諭の専門性の向上に向けた講義を開講している。大学院の授業の一部を科目等履修や聴講できるようにし、大学院で継続して学ぶことの敷居を低くするとともに、より専門性の高い幼稚園教諭の育成に繋げる。